



2024年9月4日

大洗～苫小牧航路就航予定の LNG 燃料フェリー「さんふらわあ ぴりか」の命名・進水式を実施
～商船三井グループ 4 隻目となる LNG 燃料フェリーが 2025 年度初頭に就航～

株式会社商船三井さんふらわあ(社長:牛奥 博俊、本社:東京都千代田区、以下「当社」と当社の親会社である株式会社商船三井(社長:橋本 剛、本社:東京都港区、以下「商船三井」)が内海造船株式会社(社長:寺尾 弘志、本社:広島県尾道市、以下「内海造船」)で建造中の LNG 燃料フェリー 2 隻のうち、2 番船(以下「本船」)の命名・進水式が 9 月 4 日に内海造船 因島工場(広島県尾道市)で行われました。

式典で本船は、ホクレン農業協同組合連合会代表理事会長 篠原末治様により「さんふらわあ ぴりか」と命名され、続いて会長ご令室 篠原景子様による支綱切断が執り行われました。本船は 2025 年春頃に内海造船から引渡しを受け、当社が運航する大洗～苫小牧航路の深夜便に就航する予定です。

これにより、2023 年から大阪～別府航路で就航中の「さんふらわあ くない」「さんふらわあ むらさき」、および 2025 年初頭に就航予定の姉妹船「さんふらわあ かむい」と合わせ、2025 年までに当社国内東西航路で LNG 燃料フェリー 4 隻体制での運航を実現します。



LNG 燃料フェリー「さんふらわあ ぴりか」



本船の船名「さんふらわあ ぴりか」の由来は、北海道を中心とした日本列島北部に先住してきた偉大な先人である「アイヌ」への畏敬の念を示し、LNG 燃料船という新時代の船をアイヌ語名とすることで、本船が伝統と未来を繋いでゆくことを表すとともに、就航地である「北海道」を連想いただけることを意識しました。「ピリカ」がもつ「美しい」「きれいだ」「豊かだ」といった意味から、地域や人を末永く結び、明るく美しい未来を照らし続ける存在となることを願い、命名しました。

また、「さんふらわあ かむい」「さんふらわあ ぴりか」は共通の船体デザイン、コンセプトとしながら、それぞれ異なる特色を持たせた内装とすることで、旅の期待感を高める演出をいたします。

本船の進水にあたり、商船三井が保有し、グループ会社である日本栄船株式会社(社長:田村 啓造、本社:兵庫県神戸市)が運航する、2019 年に就航した国内初の LNG 燃料タグボート「いしん」が補助曳船作業を行いました。この作業は、商船三井グループが蓄積した LNG 燃料に関する知見を次世代へつなぐ象徴的なものとなりました。

商船三井グループは、2050 年までにネットゼロ・エミッションを達成することを目指しており、「[商船三井グループ 環境ビジョン 2.2](#)」に沿って、今後も脱炭素・低炭素化実現に向けた「クリーン代替燃料の導入」戦略を推進していきます。内航フェリー事業における環境対応をリードするとともに、将来的には LNG に代わる新燃料の採用も選択肢として研究、検討を続け、業界に先駆けて積極的に取り組んでいく方針です。

■「さんふらわあ かむい」、「さんふらわあ ぴりか」関連プレスリリース

[2022年2月17日付「最新鋭LNG燃料フェリー2隻の建造を決定」](#)

[2024年1月22日付「大洗～苫小牧航路 新造LNG燃料フェリー船体デザインについて」](#)

[2024年4月11日付「大洗～苫小牧航路初の LNG 燃料フェリー「さんふらわあ かむい」の命名・進水式を実施」](#)

■「さんふらわあ くれない」、「さんふらわあ むらさき」関連プレスリリース・お知らせ

[2023年1月16日付「日本初のLNG燃料フェリー「さんふらわあ くれない」が大阪～別府航路に就航しました。」](#)

[2023年4月17日付「LNG燃料新造2番船「さんふらわあ むらさき」が就航 大阪～別府航路 4月14日\(金\)営業航海開始」](#)

商船三井グループが設定した 5 つの [サステナビリティ課題](#)

商船三井グループでは、グループビジョンの実現を通じて社会と共に持続的な発展を目指すための重要課題として「サステナビリティ課題 (マテリアリティ)」を特定しています。本件は、5 つのサステナビリティ課題の中でも特に「Safety & Value -安全輸送・社会インフラ事業を通じた付加価値の提供-」、「Environment -海洋・地球環境の保全-」、「Innovation -海の技術を進化させるイノベーション-」にあたる取り組みです。

